

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401087		
法人名	社会福祉法人恵光会		
事業所名	グループホーム南串山荘		
所在地	長崎県雲仙市南串山町丙10719番地		
自己評価作成日	令和 3年 8月 10日	評価結果市町村受理日	令和3年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和 3年 10月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は高台にあり地元を眺める事が出来ます、夕日の眺めも最高で海、空一面オレンジ色に染まる絶景で職員、利用者共に心の癒しに繋がっています。食事は三食全て職員の手作りで、一人ひとり合わせた形態で提供させて頂いております。またその日の体調に応じて内容を変更するなど利用者全員が一番「美味しい」と食べて頂く事を大事にしています。隣接するデイサービスや有料老人ホームにも顔なじみの方が利用されており時には昔話に花が咲き楽し時間を共有されています、夏祭りや敬老祭など合同で行うこともあり踊りの練習を日課とするなど楽しみながら体を動かし体調維持に努めています。洗濯干しや畳み、その他できる事はお手伝いして頂き残存機能を活かす事も忘れません。私たち職員は急がない、利用者を急がせない「ゆったり介護」を行って行きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは入居者が住み慣れた街並みや橋湾が一望できる高台に立地し、ホームの窓から外を眺める入居者の姿からもゆっくりと心やすらぎが感じられる。敷地内に隣接しているデイサービス事業所や有料老人ホームには地域住民の方が利用されており、入居者と顔馴染みの関係ができ、コロナ禍においても交流を継続できている。食事は職員の手作りのものを提供し、入居者の希望や嗜好に合わせて一緒に調理するなど、入居者の喜びや生きがいとなっている。職員は3か月毎に身体拘束に関するスローガンを考え、ホーム内に掲示して日々確認する事で身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。職員は、「自分だったら」、「自分の親だったら」と考え、入居者が日々楽しく穏やかに過ごしてもらえるようケアの実践に努めている。職員同士のチームワークも良く、気づきは互いに注意やフォローをし合える環境にある。年3回、個別面談を通して、職員個々に目標を設定し、常にスキルアップに努めており、更なる入居者支援に期待が持てるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念をみんなで話し合い作成、事務所や施設内に掲示し、日頃より意識付けをしている。	理念である『心やすらぐ、暖かい雰囲気を作ります。』を事務所内やトイレ等の職員が目につく場所に掲示し、常に確認しながら業務に取り組んでいる。毎月のミーティングでは理念に沿ったケアが行えているかを確認し、入居者本位の暖かい雰囲気を作るケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により交流はしていない、出来ない状況にあり。	現在、コロナ禍により地域との交流は自粛している。コロナ禍前は併設のデイサービス事業所で行う催しを見学に行ったり、近隣の中学校の職場体験の受け入れや、社会福祉協議会が主催する町内高齢者や老人会等の福祉運動会に参加していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記同様		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は書面会議で施設の取り組みや、近況を報告している。意見があった場合はサービスの向上に活かして行きます。	コロナ禍により運営推進会議は書面による会議とし、各構成員へ意見を求めている。構成員からは災害発生などのニュースが流れた際にホームの防災対策の状況の問い合わせがあるなど臨時な事項にも対応している。議事録は職員にも回覧・閲覧し、内容を把握している。家族には請求書やホーム便り発送時に併せて会議資料を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時には連絡を取りあっているが、コロナ禍によりほとんど交流は取っていない。	市職員とは運営推進会議への参加を含め、介護保険に関する手続き等の問い合わせなど、日頃より連携を図っている。最近では入居希望の増加に伴い、グループホーム拡張の相談を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の取り決めとして、三カ月に一度施設内で勉強会を開き理解を深めている。またスローガンを施設のあちこちに掲示し身体拘束廃止に取り組んでいます。	3か月に1回、身体拘束に関する研修会を行っている。また、3か月毎に身体拘束に関するスローガンを決め、ホーム内の要所に掲示し、対応や言葉かけについて職員同士で注意し合いながら身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様 異変を感じた際は原因究明を行います。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用はないが、機会があれば研修等で知識を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、質問等があれば随時わかりやすく説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している、ご家族来荘時には話をする様にしている。	スクリーンや窓越しではあるが家族の面会を受け入れており、面会時に意見を伺っている。毎月ホーム便りを発行し、ホームでの入居者の様子を伝えている。家族や入居者から把握した情報は日誌などに記載し、職員間で共有している。ホーム玄関に意見箱を設置しているが、意見等の投書はない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングにて意見交換をおこなっている。	職員は個々に目標を立て、年3回(年度初め・中間期・年度末)施設管理者・法人の本部職員等と面談して意見交換を行い達成度を確認している。毎月のミーティング時に職員と意見交換を行い、リクライニング式車イスや食事用の自助具など職員意見を反映し入居者の状態に合った必要な物品を購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定時での帰宅を行い、やむを得ず残業を行った際は手当に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合わせた内容で指導、助言を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の職員と意見交換を行い、情報収集を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設生活での不安を取り除くために、小さな事でも丁寧に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や面会時にご家族の要望や質問を聞き対応コロナ禍により、なかなか話す機会が作れないのが現状。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族とすることで見極めを行っている、必要であれば他のサービスの紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や自分で出来る事は日課として頂くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には利用者の日頃の状態を伝え、利用者には、利用者の気持ちを考え内容を選び伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係が途切れないようには支援しているが、コロナ禍により交流事態が取れる状況ではない。	現在、コロナ禍により外部との接触は自粛している。尚、当ホームの入居者、併設の有料老人ホームやデイサービス利用者は地元出身の方が多く、馴染みの方も多いため、感染対策を講じて可能な範囲で交流を継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性や状況を把握し、その場面、場面で対応、話す時は他の利用も巻き込み孤立しない状況を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外部でお会いしたら、挨拶をする、相談があればその場で対応、又は施設へ持ち帰り上司へ相談、対応策を後日伝えるなどしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	把握に努め、意思の尊重を行っている、困難な場合は本人本意に検討し対応している。	職員は入居者の思いを普段の会話から聞き出すよう心掛けており、意思表示が困難な方も、言葉や表情、動作などから、思いを汲み取るよう努めている。入居者から把握した情報は日誌等へ記録を残すと共に、ミーティングを活用して職員間で情報を共有しケアの実践に活かすよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人に尋ねたり、日常の会話の中から知り得たり、ご家族に尋ねるなどし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で言動、行動の観察を行い現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族、医師の助言を元に、カンファレンスを行い意見交換をしながら介護計画を作成している。	毎月のミーティング時に職員の意見を集約し、介護計画の作成・見直しを行っている。入居者毎のニーズや目標を一覧表にする事で、職員は日々確認しながらケアを実践している。遠方の家族には予め電話で介護計画の内容を説明・同意を得た上で郵送し、署名を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の記入、小さな気づき変化を詳しく記入、同時に口頭でも伝えている。情報共有をしながら介護計画等の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望、その時々状況に合わせて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、利用者の望む生活が送れる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医に受診し、情報交換を行い、日々健康に過ごせる様に支援している。	入居前からのかかりつけ医を継続し、遠方の医療機関や他科への受診も職員が同行し支援している。受診には介護日誌及びカードックスを持参し、主治医へ正確に情報を伝える事で、より適切な治療を受け健康状態が維持できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、知り得た情報を隣接する事業所の看護師に伝えて相談し、指示やアドバイスを受け、ケアに活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医師や看護師と情報交換を行い、早期退院に向けて協力体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、状態の変化があった時など、今後の在り方を話し合い、本人やご家族の意向に添えるようにしている。	ホームでは看取り支援を行っておらず、酸素や点滴等、医療行為が必要な状態になった場合は主治医に相談し、入院となるケースが多い。入居時にホームで医療行為が行えない旨を家族や本人に説明し、同意を得た上で入居してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍により研修等への参加は減っているが、職員同士で指導しあい身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災や災害に向け事業所内で勉強会を開いたり、避難訓練を実施している。	年2回の火災避難訓練には全ての職員が交代で参加している。発災時には隣接する同法人の施設が支援する態勢を整え、入居者の安全確保に努めている。現在、自然災害対策に関する計画書は、隣接する有料老人ホーム及びデイサービスと共同し、作成中である。	昨今の自然災害の発生を踏まえ、非常災害対策計画の整備及び訓練の実施が望まれる。また、隣接する同法人施設全体でのBCP(業務継続計画)に基づく、備蓄品の整備及び管理体制の構築に期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇担当を設置、言葉使い等、注意し合いながら対応している。	管理者が接遇担当者として職員の言葉遣いなど適宜指導を図っている。職員同士は互いに注意やフォローをし合える環境にある。職員は定期的に各種研修会へ参加し、参加した職員は他の職員へ伝達研修を行っている。排泄の失敗があった時は周囲に配慮しながらトイレに誘導して更衣を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から自己決定がしやすい状況を作り、本人の意思確認を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで急がない介護や、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「不意のご家族の面会があってもよい」と心構えをして、身だしなみに気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきや、味見、片付け等、その方に合った楽しみ作りをして頂いている。	同法人の調理師がメニューを作成し、ホームの職員が3食を調理している。入居者の希望や嗜好に合わせて適宜メニューを変更しながら対応している。行事や誕生日などの催しの際には入居者と一緒にケーキを作るなど、食事を通して入居者の喜びや生きがいを引き出す工夫を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた形態、量で提供、水分補給は時間を決め、それ以外でも飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、それぞれに応じた口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンで日中はトイレを使用、失敗が少なくなるよう支援している。	オムツを使用している入居者は、日中はリハビリパンツを着用し、トイレでの排泄を促している。排泄チェック表を活用して定期的に排泄誘導を行い、状況に応じてパッドの大きさを変更したり、リハビリパンツから布パンツへ変更するなど、排泄の自立に向け取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、食事、服薬(下剤)の工夫、主治医へ相談行うなどし排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や、気分、希望に応じ入浴している。お湯加減も一人ひとりに合わせ支援している。	原則、週2回午前中に入浴を支援している。保湿効果のある入浴剤の使用と、入浴後に保湿クリームを塗布し、皮膚の乾燥の予防に努めている。冬場には体が温まるように「温泉のもと」などを使用し、入浴が入居者の楽しみとなるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態でいつでも休める状態になっている、状況に応じては声掛けし休んで頂く様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の用法、副作用を把握し、変化があれば医師へ連絡相談、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに応じた内容で、手伝いや、作品作りなど、活動を大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ禍により外出先が制限されている為希望に沿っての支援は難しい。出来るようになったら支援したい。	現在、コロナ禍より外出の機会は減ってはいるが、入居者が車から降りないように配慮しながら花見や町内のドライブなどに出かけている。日常的には好天時に庭先で日光浴を行い、入居者の気分転換と閉じこもり防止に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自での金銭管理は難しく、施設預で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じては職員を通じて電話で話したりしている、手紙は来て読まれるが、返事を書くのは難しい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心安らぐ様に、家庭的な雰囲気作り、季節感を感じて頂ける飾り付けが過剰にならない様に工夫している。	共用空間の清掃は職員が毎日交代でモップ掛けを行っている。感染予防対策として定期的な換気、消毒、手洗いを励行している。毎月、季節の作品を入居者と一緒に作成して壁に飾るなど季節を感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	地元を一望できる窓際に椅子を設置、自宅や夕日を眺める事が出来る空間や、リビングでテレビや会話を出来る場所作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち物は以前から使用していた物を持参して頂いている、家具の配置は一人ひとりに合わせて変更可能。	居室は職員が週2回のモップ掛けと適宜拭き掃除を行っている。本人の馴染みの物を居室に持ち込み、個々の希望に沿った配置を検討しながら居心地の良い生活空間を整備している。夜間使用するポータブルトイレは消毒し、日中はベランダに干して匂いや清潔保持に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりにくい場所には大きな表示をしたり、利用者の生活の妨げになる所に物を置かないなど、工夫している。		